（様式第 10 号）（第 53 条関係）

施工状況等報告書

平成３１年(2019 年) ４月２６日

長野県知事　阿　部　守　一　様
（松本市長　　菅　谷　昭　　様
安曇野市長　宮　澤　宗　弘　様
池田町長　　甕　　聖　章　様）

所在地　長野県安曇野市穂高北穂高 1589 番地 2
名　称　穂高広域施設組合
管理者　宮　澤　宗　弘

長野県環境影響評価条例第 32 条第１項の規定により、下記のとおり送付します。

記

対　象　事　業　の　名　称	穂高広域施設組合 新ごみ処理施設整備・運営事業
報　告　対　象　期　間	平成 31 年(2019 年)1 月 1 日から 平成 31 年(2019 年)3 月 31 日まで
環境の保全のための措置の状況	詳細は別紙添付資料のとおり
対 象 事 業 の 実 施 状 況	詳細は別紙添付資料のとおり

（備考）必要に応じ、環境の保全のための措置の状況又は対象事業の実施状況に係る図面又は写真を添付すること。

－ 目 次 －

1. 環境の保全のための措置の状況

1-1　環境保全措置状況

1-2　環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

２．対象事業の実施状況に係る図面、写真

2-1　工程表

2-2　総合仮設計画図

2-3　現況写真(1 月,2 月,3 月)

１．　環境の保全のための措置の状況

1-1_環境保全措置状況（1/2）

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料
				種類	実施内容	実施状況	
1 大気質	（1）工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間（分散化）の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育 ・毎日の打合せ（搬入時間の調整など） ・災害防止協議会	①、②
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導		
		対象事業実施区域	暖機運転（アイドリング）の低減	低減	アイドリングストップの指導、実施状況の管理		
			工事用出入り口の路面洗浄	低減	散水による路面洗浄の実施	散水により路面を洗浄した。	③
			工事用車両荷台のシート覆い	低減	工事用車両荷台にシート覆いの設置	粉じんを飛散させるおそれがある土砂は場内再利用により場外搬出を行わなかったため、シート覆いは実施していない。	―
	（2）建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工事用仮囲いの設置	低減	周囲に工事用仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	⑤
			排出ガス対策型機械の使用	低減	排出ガス対策型機械の採用	排出ガス対策型機械を採用し、排出ガス抑制を図った。	④
			建設機械稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	①、②
			工事区域への散水	低減	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水	散水の用意をしているが、現在散水の必要なし。	―
2 騒音	（1）工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間（分散化）の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育　・毎日の打合せ（搬入時間の調整など） ・災害防止協議会	①、②
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導		
	（2）建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	工事用仮囲いの設置	低減	周囲に工事用仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	⑤
			低騒音型・低振動型建設機械の使用	低減	低騒音型・低振動型建設機械の採用	低騒音型機械を採用し、騒音抑制を図った。	④
			建設機械の稼働時間の分散	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	②
			建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	
3 振動	（1）工事関係車両の走行による影響	工事関係車両走行ルート	搬入時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間（分散化）の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育　・毎日の打合せ（搬入時間の調整など） ・災害防止協議会	①、②
			交通規制の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導		
	（2）建設機械の稼働による影響	対象事業実施区域	低騒音型・低振動型建設機械の使用	低減	低騒音型・低振動型機械の採用	低騒音型機械を採用し、振動の抑制を図った。	④
			建設機械の稼働時間の分散	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	②
			建設機械の稼働時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	
4 水質	（1）建設工事中の土地造成、掘削、舗装工事・コンクリート工事による雨水への影響	対象事業実施区域	沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	浸透貯水池を設け、場内で浸透を行った。	⑥
			雨水排水の濁りの監視	低減	降雨時は濁水状況を監視し、状況に応じ濁水を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	―
			凝集剤による土壌の沈殿促進	低減	放流水質が河川水質を悪化させる恐れがある場合は凝集剤による土壌の沈殿を行う		
			アルカリ排水中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する		
5 水象	（1）工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良（ｽｰﾊﾟｰﾗｯﾌﾟﾙｴﾙﾆｰﾄﾞ工法）により排水にたよらない掘削方法を実施した。	⑦
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施		
			適切な掘削時期の検討	低減	渇水期に掘削を開始	水位が上がる夏季を避けて掘削を開始した。	―
6 土壌汚染	（1）工事による影響	対象事業実施区域	建設発生土の全量再利用	回避	発生土を場内の埋め戻し等に再利用	期間中は発生土はなかった。	―
7 地盤沈下	（1）工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良（ｽｰﾊﾟｰﾗｯﾌﾟﾙｴﾙﾆｰﾄﾞ工法）により排水にたよらない掘削方法を実施した。	⑦
			適切な掘削方法の検討	低減	湧水量を抑え、排水にたよらない掘削方法の実施		
8 地形・地質	（1）工事による影響	対象事業実施区域	掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良（ｽｰﾊﾟｰﾗｯﾌﾟﾙｴﾙﾆｰﾄﾞ工法）により排水にたよらない掘削方法を実施した。	⑦
			適切な掘削方法の検討	低減	湧水量を抑え、排水にたよらない掘削方法の実施		
			矢板等の設置による崩落防止	低減	掘削面の崩壊を防止する	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削深さを小さくし、土留めを使用としない工法とした。	

【環境保全措置の種類】
回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
代償：代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

※低振動型建設機械について
現在低振動型建設機械の製作は廃止しており、低振動型機械が手配不可能なため、
低騒音型建設機械を使用することにより騒音の抑制ができ、かつ振動の抑制を図った。

1-1_環境保全措置状況(2/2)

対象	内容	作業位置	環境保全措置	環境保全措置			添付資料
				種類	実施内容	実施状況	
9 植物	(1)工事関係車両の走行による影響	対象事業実施区域	工事用仮囲いの設置	低減	周囲に工事用仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	⑤
			工事区域への散水	低減	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水	散水の用意をしているが、現在散水の必要なし。	―
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	―
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する		
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(ｽｰﾊﾟｰﾗｯﾌﾟﾙｴﾙﾆｰﾄﾞ工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	⑦
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施		
			生育地の保全	回避	できる限り生育地の改変を回避し、生育可能な状態を保全する	クマツヅラの生育地の改変を回避した施設配置とした。	平成30年10月18日 施工状況等報告書参照
			個体の移植	代償	生育地の保全が困難な場合、個体の移植を実施	アオガヤツリから採種し、今後播種の計画を作成する。	平成31年1月25日 施工状況等報告書参照
10 動物	(1)工事による影響	対象事業実施区域	騒音発生の低減	低減	低騒音型機械の採用し、集中稼動を避ける。	低騒音型機械の採用し、集中稼動を避けた。	②、④
			振動発生の低減	低減	低騒音型機械の採用し、集中稼動を避ける。	低騒音型機械の採用し、集中稼動を避けた。	②、④
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	―
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する		
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(ｽｰﾊﾟｰﾗｯﾌﾟﾙｴﾙﾆｰﾄﾞ工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	⑦
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施		
			生息地の保全	回避	できる限り生息地の改変を回避し、生息可能な状態を保全する	コウフオカモノアラガイの生息地の改変を回避した施設配置とした。	平成30年10月18日 施工状況等報告書参照
			固体の移植	代償	直接影響を受ける種について、生息適地の調査と移殖の実施	ヒメカメムシの移植を実施。コウフオカモノアラガイは継続調査。	平成31年1月25日 施工状況等報告書参照
11 生態系	(1)工事による影響	対象事業実施区域	工事用仮囲いの設置	低減	周囲に工事用仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	⑤
			工事区域への散水	低減	土ぼこりの飛散防止のため、工事区域への散水	散水の用意をしているが、現在散水の必要なし。	―
			騒音発生の低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼動を避ける。	低騒音型機械を採用し、集中稼動を避けた。	②、④
			振動発生の低減	低減	低騒音型機械を採用し、集中稼動を避ける。	低騒音型機械を採用し、集中稼動を避けた。	②、④
			地区外流出抑制対策の実施	低減	河川側に側溝を設置する	現在は地区外流出のおそれのある工事を行っていないため、側溝は設置していない。	―
			沈砂池の設置	低減	沈砂池を設け、濁水の土砂を沈降させ、上澄水を放流	期間中排水を必要とする降雨がなかったため、濁水状況の監視、上澄水の放流、凝集剤による土壌の沈殿は行わなかった。	―
			アルカリ排水の中和及び流出防止	低減	アルカリ排水の流出を防止する		
			掘削面積、掘削深度の最小化	低減	掘削面積及び掘削深度が最小となるよう、施設設計の実施	プラットホームを3階に配置し地下をなくす施設設計とすることにより、掘削量の削減と排水をなくした。地盤改良(ｽｰﾊﾟｰﾗｯﾌﾟﾙｴﾙﾆｰﾄﾞ工法)により排水にたよらない掘削方法を実施した。	⑦
			適切な掘削方法の検討	低減	排水にたよらない掘削方法の実施		
12 触れ合い活動の場	(1)工事関係車両の走行による影響	対象事業実施区域	搬入出時間の分散	低減	現場工程打合せにより搬入時間(分散化)の調整	工事関係者に指導・教育を行い、周知徹底を図った。 ・新規入場教育　・毎日の打合せ(搬入時間の調整など) ・災害防止協議会	①、②
			交通規則の遵守	低減	現場教育時に交通規制遵守への指導		
	(2)建設機械の稼動による影響	対象事業実施区域	工事用仮囲いの設置	低減	周囲に工事用仮囲いを設置	工事区域には仮囲いを設置した。	⑤
			低騒音型・低振動型建設機械の使用	低減	低騒音型・低振動型建設機械の採用	低騒音型機械を採用し、騒音振動の抑制を図った。	④
			建設機械の稼働時間の分散	低減	現場工程打合せにより適正な稼働時間の調整	毎日の打合せにより稼働時間の調整を行った。	②
			建設機械稼動時間の抑制	低減	建設機械は、アイドリング停止を徹底する。	毎日の打合せによりアイドリング停止を徹底した。	
13 廃棄物等	(1)工事による影響	対象事業実施区域	建設発生土の全量再利用	回避	発生土を場内の埋め戻し等に再利用	期間中は発生土はなかった。	―
			コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	低減	コンクリートくず、金属くず、木くず等の再生利用	建設副産物は分別搬出の上再利用を行っている。	―
			現場での分別排出	低減	現場で可能な限り分別排出を行う	建設副産物は分別搬出の上再利用を行っている。	―

【環境保全措置の種類】
回避:全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。
低減:継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。
代償:代用的な資源もしくは環境で置き換え、または提供すること等により、影響を代償する。

※低振動型建設機械について
現在低振動型建設機械の製作は廃止しており、低振動型機械が手配不可能なため、
低騒音型建設機械を使用することにより騒音の抑制ができ、かつ振動の抑制を図った。

■新規入場者教育資料

KSH-50-13 (2015.08.08)

新規入場者のみなさんへ

労災隠しをいたしません！ 小さな怪我でも報告！

報告はタイムリーに実施！

当社現場は、必ずヘルメット・靴（サンダルや草履は不可）を着用しなければ入場を認めません！

当現場の紹介

工事名	穂高広域施設組合 新ごみ処理施設建設工事
工期	2019年4月11日 ～ 2021年2月28日
工事場所	長野県安曇野市穂高北穂高1000番
施主	穂高広域施設組合
工事概要	構造 RC造、S造、一部SRC造 階数 地上6階建て 延床面積 7581.0 ㎡
屋根	ガルバリウム鋼板(アリ)1.1折板屋根葺
外壁	ALCパネル貼し、一部コンクリート打放し、一部タイル
統括責任者	竹内 寿幸
安全衛生管理者	桜田 勝
工事責任者	武士 清貴
安全衛生責任者	宮田 信明
工事責任者	プラントホーム 山崎健太
	コンクリート・型枠・付属物 中込裕貴
	鉄骨・屋外鉄骨・階段・足場 高橋博敬
保員	田口、石江 小林、大島 牛山
事務所TEL	0263-88-7523
事務所FAX	0263-88-7523

安全朝礼 8:00 ～ 8:15

TBM・KY 8:15 ～ 8:25

始業点検 8:25 ～ 8:30

統責者巡視 11:00 ～ 11:30

安全パトロール 11:30 ～ 11:45

職長会議 13:00 ～ 13:20

統責者巡視 15:30 ～ 16:00

持場片付 16:50 ～ 17:00

安全施工サイクル

当現場の安全衛生方針

三現主義に基づいた安全管理活動を行い、不安全行動と不安全設備を排除し、全工期無事故無災害で竣工する。

当現場の安全衛生目標

1 安全施工サイクルの効果的運用を推進し、安全管理体制の強化に努める。
2 リスクアセスメント作業手順書の活用及び自主的な安全衛生活動の推進
3 事業主による職場診断結果に基づいた作業員への指導及び管理の徹底
4 三大災害の防止対策への積極的な取組
5 整理・整頓・清掃・清潔・しつけ(5S)運動の完全取行を推進する
6 第三者災害防止対策の徹底

当現場の品質方針（重点目標） ISO9001

1 躯体工事の品質管理を徹底し、欠陥を防止する。
2 型枠外壁からの漏水を防止する。
3 PDCAのCAの実践により無事故無災害を達成する

※ ISO検査担当者はあなたです。受入、工程内検査の内容、タイミングを確認しましょう！

当現場の環境方針（重点目標） ISO14001

1 廃棄物のリサイクル率を90%以上とする。
2 CO2排出抑制等の環境改善活動を1件以上実施する
3 CO2排出量を測定する

通行規制 有・無
時間規制 有・無

現場周辺・駐車場案内図

大町方面
駐車場
現場
事務所
安曇野IC方面
事務所までの通路
現場までの通路
事務所から現場までの歩行通路
オレンジの内側を歩くこと。
建築広域施設の敷地内を通行するため注意のこと。

高所作業は、"安全帯を使用する"
当社の高所作業時のルールです

① 8時から朝礼を行います。必ず全員参加して下さい。（朝礼不参加者は入場禁止です。）
② 免許証・技能講習・特別教育等の資格証は、作業中必ず携帯してください。
③ 中小事業主・1人親方の方は、労災保険の特別加入を証明するものを持って来てください。（写しでも可）
（特別加入されていない方や期限の切れた方は、当社の作業所で作業できません。）
④ 必要な保護具（保安帽・安全帯・安全靴・保護メガネ・保護マスク等）は各社で用意し、点検して持ち込んでください。（必要な保護具のない方は、当社の作業所で作業禁止です。）
⑤ 持込機械工具等は、各社の責任で点検し異常のないことを確認したものを持ち込んでください。（持込時に申請し、必ず受理証をもらうこと）
⑥ 全ての作業は各社から提出された作業手順書に基づき実施となります。作業前に作業手順書を確認して下さい。
⑦ 作業開始前に作業手順書を元に、リスクアセスメントを取り入れた危険予知活動を全作業員で実施してください。
⑧ 定期健康診断を受けていない人は入場できません。
⑨ 送出し教育を実施し、作業員の健康状態を確認し作業所に送出してください。また、職員は毎朝作業員の健康状態（朝食抜き・睡眠不足・二日酔いが無いか）確認し体調に応じた、適正配置を行ってください。
体調の悪い作業員は作業を控えるように指導してください。
⑪ 過積載禁止・運転中の携帯使用禁止等道路交通法を遵守すること。

新規入場者受入教育時に実施する血圧測定の結果により、下記の扱いとなりますので注意願います
Ⅰ度（軽症）高血圧 収縮期140～159mmHg 拡張期90～99mmHg → 通常作業可能
Ⅱ度（中等症）高血圧 収縮期160～179mmHg 拡張期100～109mmHg ⇒ 事業主に報告の上、慎重観察。高所作業及び重修作業禁止。
Ⅲ度（重症）高血圧 収縮期180mmHg以上 拡張期110mmHg以上 ⇒ 当現場への入場をお断りします。医療機関で治療を受けて下さい。

作業所の規則

イ. 朝夕の通勤時間帯は、入口付近の歩行者・車両に注意すること。通勤車両は、指定された工事用駐車場に駐車すること
ロ. 北側道路面生コン車の往来が多い為、車両に注意及び駐車・停車の禁止
ハ. 通勤車両・待機車両のアイドリング防止につとめること。
ニ. 駐車場・現場までの通路・構内全て禁煙・飲食禁止（喫煙は休憩所のみ）
ホ. 構内に入場する重機・車両に油漏れがないのか確認すること
ヘ. 朝礼からヘルメット・安全靴・安全帯を着用すること
チ. 高所作業の場合は必ず安全帯を使用すること
リ. 脚立上段での単独使用禁止、脚立足場の三点支持若しくは2枚敷きの徹底
ヌ. 作業前には必ず職長が中心となり、危険予知を行うこと
ル. ゴミは指定の置場に分別し捨て、飛散防止のためコンテナの蓋は必ず閉めること
ヲ. 作業内容・作業方法の変更に際しては、必ず事前に北野建設担当者に連絡し、手順の再確認を行うこと
ワ. 使用重機は低騒音・低振動対応機種等を使用し、環境影響に配慮すること。
カ. 現場敷地内に泥を持ち出さないように注意すること。
ヨ. 有資格作業の種類、足場作業時等の必要点検、休憩場所を確実に行うこと。
タ. 夏季においては、熱中症防止対策を講じること。
レ. 冬季においては、スリップ転倒災害に注意すること。通勤時は交通災害に注意すること。
ソ. あづみ野ランドで車道水・木・金・日曜日の16時から賑わい事が開催されます。
あづみ野ランド駐車場が込み合うので第三者災害に十分注意のこと。
ツ. 現場周辺一部舗装ひび割れ箇所があるため、立ち入り禁止のこと。
ネ. 西側付近の現場歩道橋の歩道に段差、亀裂あり、あづみ野ランドへの通行配置の変更があるため通行時間帯注意のこと

アイドリング防止の指導

作業所の規則

イ. 朝夕の通勤時間帯は、入口付近の歩行者・車両に注意すること。通勤車両は、指定された工事用駐車場に駐車すること
ロ. 北側道路面生コン車の往来が多い為、車両に注意及び駐車・停車の禁止
ハ. 通勤車両・待機車両のアイドリング防止につとめること。
ニ. 駐車場・現場までの通路・構内全て禁煙・飲食禁止（喫煙は休憩所のみ）
ホ. 構内に入場する重機・車両に油漏れがないのか確認すること

交通規則の遵守

⑪ 過積載禁止・運転中の携帯使用禁止等道路交通法を遵守すること。

添付資料②

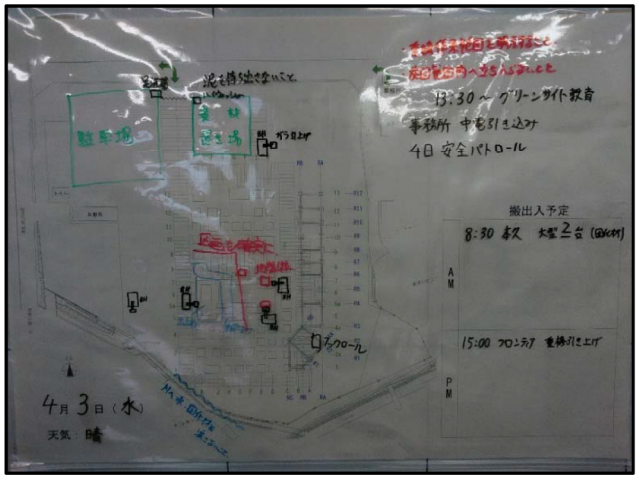
■毎日の打合せ（状況写真）

毎日の打合せにて以下の点についても調整を実施しています。（1日1回実施）

・搬入時間（分散化）の調整

・建設機械稼動時間

・建設機械の配置（建設機械の集中稼動を避ける調整）



■災害防止協議会（状況写真）

毎日の打合せにて以下の点についても調整を実施しています。（1日1回実施）

・アイドリング防止

・交通規則の遵守

添付資料③

■散水による路面洗浄

添付資料④

■低騒音型機械、排ガス対策型機械の使用

■仮囲いの設置

■沈砂池の設置

■地盤改良（スーパーラップルエルニード工法）

■地盤改良（スーパーラップルエルニード工法）

URBAN ARCHITECTS

大地のフォルムを確かな技術で支える

経済性　安全性　施工性

スーパーラップルエルニード工法

㈶日本建築総合試験所／GBRC性能証明第08-22号

スーパーラップルエルニード工法は、建設発生土に水とセメント系固化材を加え混合してできる安定処理土を用い、建築基礎のラップルコンクリートをより改良した工法です。
試験体制、配合計画、施工管理及び様々な土質に適合した混合装置開発、施工ノウハウを確立したことにより強度にバラツキの少ない高品質の造成体を構築することが可能となりました。
実際施工において誰が見ても分かりやすく、直接的に造成体の信頼が確認できる技術を確立いたしました。
『理論の整備確立・装置の開発改良・分かりやすい施工技術』がスーパーラップルエルニード工法の根幹を支えております。

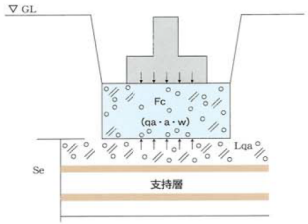
設　計

構造物の規模、基礎の形状、地盤の状況を考慮し用途に応じた適切な強度と安全な設計を第一とする。
基本的には、直接基礎あるいはラップルコンクリート基礎と同様に造成体底面部における総荷重度に対し地盤の支持力度が上回る事を確認する。
総沈下量が許容範囲内である事を確認する。

① 造成深さ：ボーリングデータを基に、土壌・層厚・水位・N値を考慮し、支持地盤を決定する。
② 基礎幅：基礎底面における接地圧と基礎の設計を考慮し、基礎幅を決定する。
③ 造成部：基礎幅に対し片側20cm（最低）から1/2h（最高）範囲内とする。
④ 造成部強度：基礎底面部における接地圧から求まる圧縮強度に安全率を乗じて決定する。
⑤ 配合量：スーパーラップル基礎工法強度特性関係式により推定し、事前室内配合試験結果により決定する。

地震時水平力の検討

1. $\{\max s\sigma e, \min s\sigma e\} \leqq s\sigma e$
2. $Q_E \leqq sQ_w + sQ_f$
3. $(Q_D/A_R) \leqq f_\tau$
4. $\sigma\max \leqq fc$
   $\sigma\min \leqq ft$



地盤の支持力度（kN/㎡）

$$Lqa = \frac{1}{3}\left(ic \cdot \alpha \cdot C \cdot Nc + i\gamma \cdot \beta \cdot \gamma 1 B \cdot N\gamma + iq \cdot \gamma 2 \cdot Df \cdot Nq\right) - wb$$

地盤の即時沈下量（cm）

$$Se = \mu H \cdot \frac{q \quad s \cdot \sqrt{AR}}{E} \times 100$$

造成体強度（N/mm²）

$$Fc = 3 \times \frac{6}{5.3} \quad q_u \times \frac{1}{1000}$$

配合量（kg）

$$Loga = \frac{1}{m}\left(\mathrm{Log}\ qu + n\mathrm{Log}w + \mathrm{Log}k\right)$$

スーパーラップルエルニード工法の特徴

1 優れた経済性

掘削から造成完了まで一時間足らずの為ほとんどの場合直掘りが可能であり、余掘りや型枠のセット及び撤去が不必要となりました。

2 支持層の確認が容易

支持地盤まで掘削を行う為、目視或いは触診ができます。

3 現場発生土が少ない

現場発生土と固化材を撹拌する工法の為、発生する残土が少なく処分も容易です。

4 工期の短縮と高品質な造成体

混合に用いるバケットは土質に合わせた混合装置を使い分ける事により高品質そして効率アップが図れます。

5 自然土含水量変化に機敏に対応可能

配合計画の中に調整含水比を取り入れた事により造成体の均一性が高められます。

スーパーラップルエルニード工法の施工フロー

事前

土採取
計画書作成
土質試験
試験練り フロー値測定
一軸圧縮 強度試験 σ3・σ7
六価クロム 溶出試験
配合量決定

着工

掘削機械設置
掘削位置確認
掘削開始
支持層確認
掘削完了
掘削深度確認
造成幅、造成厚計測
造成体積決定
注入量決定
固化材、現場発生土、調整水投入
ミキシング
フロー値確認
改良天端レベル確認
終了

事後

コアの圧縮試験 σ7、σ28
データーの整理
報告書の作成
報告書提出

■地盤改良（スーパーラップルエルニード工法）

環境に配慮した高品質な造成体

スーパーラップルエルニード工法の施工手順

1 掘削開始
掘削幅を確認後逃げ墨を打ち、造成位置に掘削機を設置し掘削を開始します。

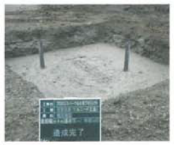
2 掘削状況
確実な掘削幅の確保と支持層の見極めを行いながら掘削を進めます。

3 掘削完了 支持層確認
ボーリング柱状図と照らし合わせ、監理及び現場管理者の支持層確認後速やかに造成体積を算出し、投入固化材量を決定します。

4 固化材投入
決定された配合量に基づき固化材・水・掘削土を投入します。

5 混合状況
上下撹拌を繰り返し、造成体を均一なものにします。

6 フロー値確認
添加水量の適正化の確認にはシリンダー法を用いて試験室決定フロー値の許容範囲内であることを確認します。
「日本道路公団規格 JHS A 313」



7 造成完了
所定のレベルに仕上げ造成完了とし、翌日天端整正を行う。
造成完了直後φ100mmの塩ビ管を差込み、コアを採取する。

8 供試体採取
供試体は材令7日及び、28日に一軸圧縮試験を実施し、設計基準強度を上回っている事を確認します。

事前室内配合試験

施工に先立ち、次に掲げる試験項目を実施し、その結果に基づき配合試験を行います。

自然含水比　湿潤密度　粒度組成

現地土採取

粒度測定

含水比測定

上記試験結果に基づき、固化材特性関係式を用い必要設計基準強度を満たす配合量を求め、試験練りを行います。
その際、造成特性を観察し適性添加水量を決定します。（フロー値）

試験練り

フロー値測定

所定在令日（σ3、σ7）に一軸圧縮試験を行い、配合量を決定します。

一軸圧縮試験

あらゆる土質に対応可能な使用アタッチメント

土質及び施工条件に合わせた混合装置を使い分ける事により、造成部の品質の向上、施工のスピードアップが可能となります。

スケルトンミキシングバケット

M型ミキシングフォークバケット

自社製M型ミキシングフォークバケット

ドライブミキシングバケット

造成体強度確認

スーパーラップル基礎工法では全長コアの一軸圧縮試験を行い、造成部の強度確認を行います。

脱型状況

供試体確認

水中養生

一軸圧縮試験 σのみ

含水量の管理

フロー値確認

フロー値の目的は、現場での調整水の適正度を確認するために行い、不確定要素の多い現場での調整水量の管理のために行います。事前の室内配合試験では自然含水量から求められた調整水を投入し、その時の改良体の広がりを計測し強度を確認し施工管理はその値以内におさまるように管理します（フロー値確認）。

環境対策

地球にやさしい

「地球環境で働く。」

株式会社エルニード東北ではCO2排出量が少ない全車ハイブリットショベルを使用し、環境に配慮した作業をしております。

1-2_環境影響評価準備書に対する知事の意見及び実施状況

対象	知事の意見 （工事中に関連する部分について、原文）	事業者の見解 （工事中に関連する部分について、原文）	作業位置	環境保全措置	環境保全措置		
					種類	実施内容	実施状況
全般	（1）工事関係車両の走行による影響	安全性の確保や環境の保全に最大限配慮して施設準備や管理運営を行います。工事中は、工事の進捗状況やモニタリング結果等を組合ホームページ等で公表します。共用開始後についても、稼働状況や検査結果を組合ホームページ等で公表し、地域の皆さんの安全・安心の確保に努めます。	—	—	—	ホームページで工事の進捗状況を公表します。	ホームページで工事の進捗状況を公表しています。
水象	地下水について、良好な水循環が行われるよう、水の浸透や蒸発散に関して適切な配慮がなされた施工計画を検討すること。	区域内の雨水排水は地下浸透を原則とし、また緑地は敷地面積に対して最低でも20%以上とすることで、蒸発散や地下浸透を妨げないよう十分に配慮します。	対象事業実施区域	水の蒸発散や地下浸透を妨げないように配慮	低減	敷地面積に対して緑地面積を20%以上確保し、水の蒸発散や地下浸透を妨げない計画とします。外構舗装工事を工事の終盤に実施し、工事中も水の蒸発散や地下浸透を妨げないようにします。	実施設計で緑地面積を20%以上確保しており、計画に沿って施工しています。 外構舗装工事を工事の終盤に実施する計画工程とし、計画に沿って施工しています。
水象	事業実施区域は地下水位が高いことから、現状想定される最大の環境影響を踏まえた上で、最深部の掘削について、地下水位が安定した渇水期に実施すること。	地下水への対策として、プラットホームを3階に設けるなどのできる限り掘削深度を小さくする配慮を行います。また掘削時期については、地下水位が安定した渇水期に開始するよう計画します。	対象事業実施区域	掘削深度を小さくする 渇水期に掘削を開始	低減	プラットホームを3階に設置し、掘削深度を小さくする施設計画とします。掘削は地下水が安定した渇水期に実施します。 地盤改良（ｽｰﾊﾟｰﾗｯﾌﾟﾙｴﾙﾆｰﾄﾞ工法）により排水にたよらない掘削方法を実施します。	プラットホームを3階に設置し、掘削深度を小さくする施設計画としています。掘削は地下水が安定した渇水期に開始しました。 地盤改良（ｽｰﾊﾟｰﾗｯﾌﾟﾙｴﾙﾆｰﾄﾞ工法）により排水にたよらない掘削方法を実施しました。
動物	コウフオカモノアラガイについて、できる限り生息地の改変を回避すること。改変を回避できない場合は、類似した生態のカタマメマイマイの生息地に移殖を行うことを検討すること。	コウフオカモノアラガイについては、生息地の改変を回避するよう、施設配置計画及び工事計画を検討します。どうしても回避できない場合は、類似した生態のカタマメマイマイの生息地を参考に、現地調査を行った上で移殖適地を検討し、移殖を行います。	対象事業実施区域	生息地の改変回避または移殖	低減	緑地を計画し、コウフオカモノアラガイの生息地の改変を回避する施設配置計画とします。	コウフオカモノアラガイの生息地を緑地として残置する施設計画とし、残置部分の立ち入り禁止措置をして施工しています。
景観	事業実施区域は松本・安曇野方面と大町白馬方面を結ぶ幹線となる道路に接しており、道路の屈曲部にあることから視認性が極めて高い。それを踏まえて、施設の設計に当たっては、建物と煙突の形状・意匠・色彩などに十分配慮すること。	幹線道路や周辺の道路、あずみ野ランドからの景観を考慮して、建物と煙突の形状・意匠及び色彩などに十分配慮した設計を行います。	対象事業実施区域	形状・意匠・色彩に配慮	低減	曲面形状の屋根を採用することで、幹線道路や周辺道路から見たときに、あづみ野ランド等の周辺施設と調和したデザインとしました。また、あづみ野ランドの利用者から見える壁面を曲面形状とするとともに、煙突を最も遠くに配置することで、あづみ野ランドから見たときの圧迫感を低減する計画としました。	左記の通り施設計画を行い、計画に沿って施工をしています。

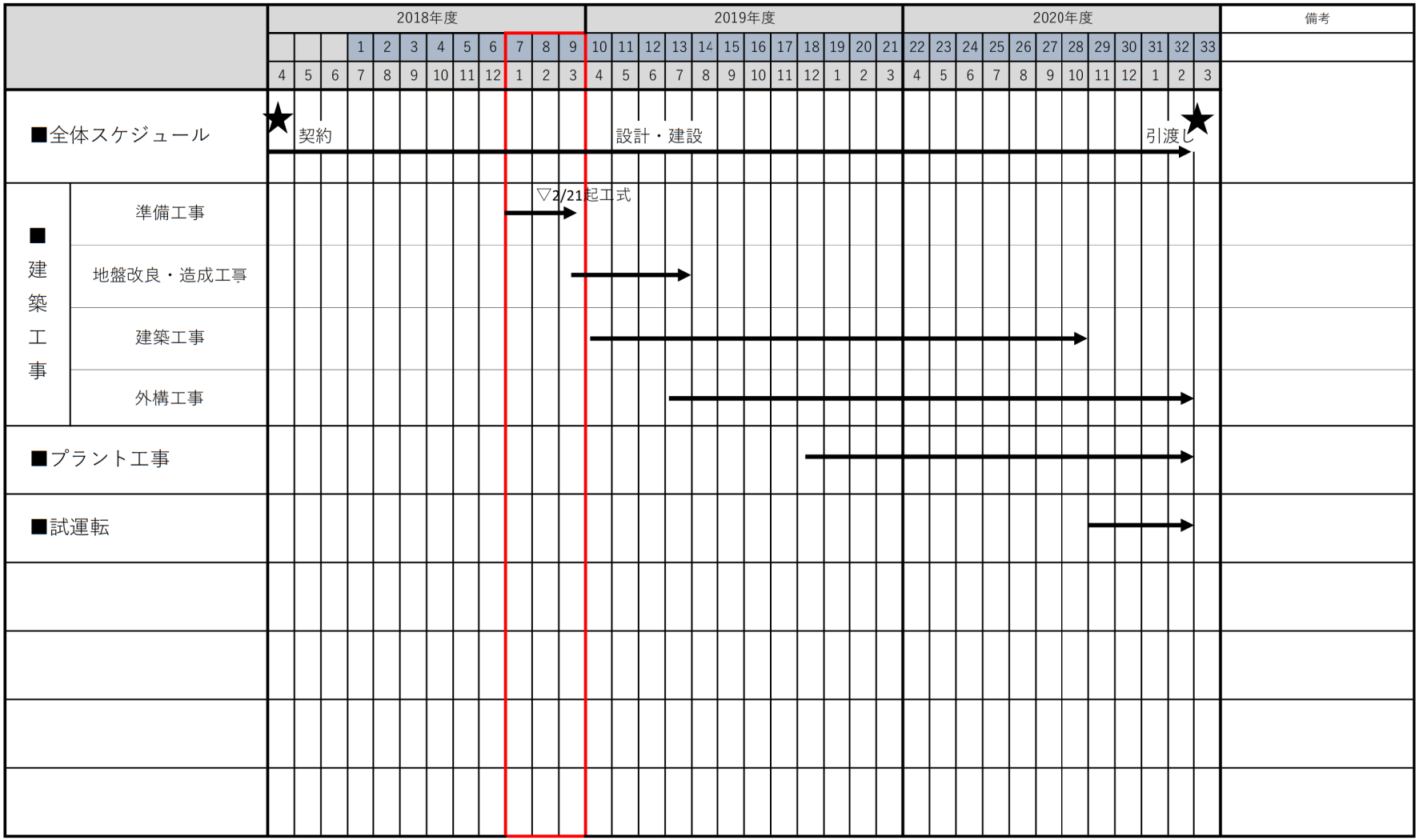
【環境保全措置の種類】
回避：全部又は一部を行わないこと等により、影響を回避する。

最小化：実施規模または程度を制限すること等により、影響を最小化する。

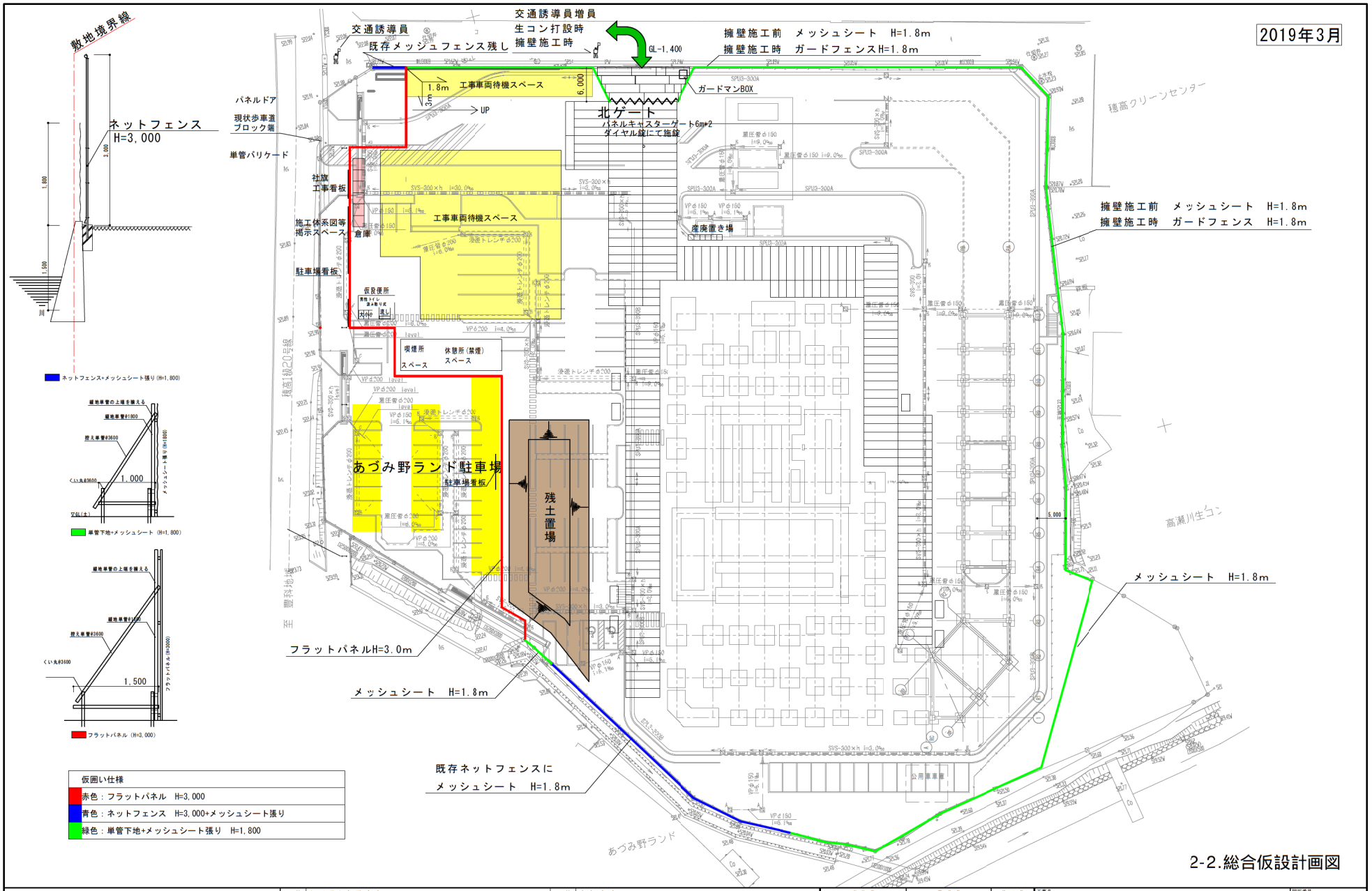
低減：継続的な保護または維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

２．対象事業の実施状況に係る図面、写真

2-1.工程表


2018年度
2019年度
2020年度
備考
■全体スケジュール
契約
設計・建設
引渡し
■建築工事
準備工事
▽2/21起工式
地盤改良・造成工事
建築工事
外構工事
■プラント工事
■試運転

2019年3月



仮囲い仕様
赤色：フラットパネル　H=3,000
青色：ネットフェンス　H=3,000+メッシュシート張り
緑色：単管下地+メッシュシート張り　H=1,800

2-2.総合仮設計画図

株式会社　武井組

◆㈱武井組　一級建築士事務所
一級建築士事務所　長野県知事登録　松本2X332号
一級建築士　酒井　義人　大臣登録　第242341号

日付	訂正及び変更内容	日付	追加内容

発注者	監理者	施工者
印	印	㈱武井組 竹内 印

工事名：穂高広域連合組合新ごみ処理施設建設工事
図面名：総合仮設図(基礎工事時)
図面番号：仮 5-1
JOB No
日付　作図年月日：　出力年月日：2019/ 4/12
縮尺　A1：1:300　(A3：1:600)
作図担当
CAD　Jww (Ver8.00a)

□ 打合せ図　□ チェック図　□ 決定図 【決定日：　】

2-3_現況写真

1月

2月

3月